

安全データシート (SDS)

1 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名 デオックス

会社情報

会社名 株式会社エスティージェイ

担当部署

住所 〒213-0002 神奈川県川崎市高津区二子一丁目26番26号

電話番号 044-850-1401

Fax 番号 044-850-1402

電子メールアドレス

緊急連絡電話番号 044-850-1401

推奨用途及び使用上の制限

ステンレス用酸化物除去剤

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口） 区分4

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分1

眼に対する重篤な損傷性又は
眼刺激性 区分1

特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分3（気道刺激性）

この混合物の約32%は急性毒性（経口）が未知の成分からなる。

環境に対する有害性

分類できない

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

重篤な眼の損傷

呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

[安全対策]

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱後はよく手を洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急措置]

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

直ちに医師に連絡すること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

[保管（貯蔵）]

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

重篤な眼の損傷

呼吸器への刺激のおそれ

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
リン酸	7664-38-2	1-422	47.5-50
フッ化水素カリウム	7789-29-9	1-311	8-9
クエン酸	77-92-9	2-1318	8-9

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 呼吸が停止しているか苦しい場合、人工呼吸を行う。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類を脱ぎ、大量の水で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で 30～60 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。 無理に吐かせないこと。

予想される急性症状

情報なし

遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。

消火活動は風上から行う。
 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。
 作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。
 少量の場合、ウエス、雑巾等でよく拭き取り適切な廃棄容器に回収する。
 大量の場合、盛土等で囲って流出を防止する。
 取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。
 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。 容器を接地すること、アースをとること。 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
接触回避 衛生対策	混触禁止物質 取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策	保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設定を設ける。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
混触禁止物質	リン酸：金属、強アルカリ、アルデヒド類、硫化物、過酸化物

保管条件	容器を入れ替えない。直射日光を避け、換気の良い場所で、容器を密閉して保管する。
容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2014)	1 mg/m ³ （リン酸） 2.5 mg/m ³ （フッ化物、Fとして）
ACGIH TLV-STEL (2014)	3 mg/m ³ （リン酸）
日本産業衛生学会（2014）	1 mg/m ³ （リン酸）

設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄剤のための設備を設ける。
 気中濃度を推奨された管理濃度・許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。

保護具

呼吸用保護具	ガスや微粒子を含む蒸気用の保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	保護手袋を着用する。
眼の保護具	気密性のある保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	長袖保護衣と安全靴を着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観（物理化学的状態、形状、色など）	黄色液体
臭い	刺激臭
臭いの閾値	情報なし
pH	1
融点・凝固点	情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし
引火点	情報なし
蒸発速度	情報なし
燃焼性	情報なし
燃焼範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	情報なし
比重	1.380 kg/L
溶解度	水：可溶
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	>200°C（リン酸）

粘度 情報なし

10 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	通常の取扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常のと扱条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	リン酸：ニトロメタン、アルカリ、水素化ホウ素ナトリウム
混触危険物質	リン酸：金属、強アルカリ、アルデヒド類、硫化物、過酸化物
危険有害な分解生成物	リン酸：リン酸化物

11 有害性情報

製品の有害性情報

情報なし

成分の有害性情報

リン酸

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ =1,250mg/kg
急性毒性（経皮）	ウサギ LD ₅₀ =2,740mg/kg
急性毒性（吸入）	ラット LC ₅₀ > 0.85 mg/L/1h
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	24 時間暴露の影響で、ウサギの皮膚に 75-85%溶液を適用した試験において腐食性が認められた。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	皮膚腐食性である。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	ACGIH (7th, 2001)、産衛学会勧告（1993）でミストは上気道に刺激的である。

クエン酸

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ =3,000mg/kg
----------	----------------------------------

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

成分の環境影響情報

情報なし

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

国連番号	3264
品名	その他の腐食性液体、酸性、無機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類	8
副次危険性	-
容器等級	II

海上輸送（IMO の規定に従う）

国連番号	3264
品名	その他の腐食性液体、酸性、無機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類	8
副次危険性	-
容器等級	II
海洋汚染物質	該当しない
IBC コード	該当しない

航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）

国連番号	3264
品名	その他の腐食性液体、酸性、無機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類	8
副次危険性	-
容器等級	II

国内規制

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	船舶安全法に従う
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	航空法に従う

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

154

特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	第1種指定化学物質（ふっ化水素及びその水溶性塩）（1質量%（ふっ素として）以上を含有する製品）
労働基準法	疾病化学物質（弗素及びその無機化合物（弗化水素酸を除く））
労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（りん酸）（1重量%以上を含有する製剤その他のもの）、（弗素及びその水溶性無機化合物）（0.1重量%以上を含有する製剤その他のもの）
水質汚濁防止法	有害物質（アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物、ふっ素及びその化合物）
海洋汚染防止法	有害液体物質（Z類物質）（燐酸）
航空法	腐食性物質
船舶安全法	腐食性物質
港則法	その他の危険物・腐食性物質
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項（りん酸、ふっ化物） 輸出貿易管理令別表第2（輸出の承認）（ふっ化カルシウムを除く無機ふっ素化合物）
土壤汚染対策法	特定有害物質（ふっ素及びその化合物）

16 その他の情報

参考文献

株式会社エスティジェイ提供資料

NITE GHS 分類結果一覧（2015）

日本産業衛生学会（2014）許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2014) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

製品安全性データシート (MSDS)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称

製品名 INOX FIT

会社情報

会社名 株式会社エスティジェイ

担当部署

住所 〒213-0002 神奈川県川崎市高津区二子一丁目 26 番 26 号

電話番号 044-850-1401

Fax 番号 044-580-1402

緊急時の連絡先（電話） 044-850-1401

推奨用途

ステンレス用 酸化物除去・脱脂剤（酸性）の中和剤

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体 区分4

健康に対する有害性

急性毒性（吸入：粉じん） 区分4

眼に対する重篤な損傷性/刺

激性 区分2

生殖細胞変異原性 区分1

生殖毒性 区分1

特定標的臓器毒性（反復暴

露） 区分2（肝臓）

環境に対する有害性

分類できない

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル

感嘆符、健康有害性

注意喚起語

危険

危険有害性情報

可燃性液体

吸入すると有害

強い眼刺激

遺伝性疾患のおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

長期にわたる、又は反復暴露による肝臓の障害のおそれ

注意書き

[安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
 取扱後はよく手を洗うこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 指定された個人用保護具を使用すること。

[救急処置]

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
 気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
 火災の場合：適切な消火剤を使用すること。

[保管]

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
 施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

重要危険有害性

可燃性液体、吸入すると有害、強い眼刺激、遺伝性疾患のおそれ、生殖能又は胎児への悪影響のおそれ、長期にわたる、又は反復暴露による肝臓の障害のおそれ

3. 組成及び成分情報

単一物質・混合物の区別

混合物

一般名または化学名、成分情報

化学名または一般名	CAS 番号	官報公示整理番号	含有量 (wt%)
亜硝酸ナトリウム	7632-00-0	(1)-483	0.10～0.50
ケイ酸ナトリウム	6834-92-0	(1)-508	0.20～0.60
ドデシルベンゼンスルホン酸	25155-30-0	(3)-1884、	0.00～0.40

ナトリウム		(3)-1906、(3)-1949	
エタノール	64-17-5	(2)-202	6.0～7.0
水	7732-18-5	—	>92
その他	—	—	<0.50

GHS 分類に寄与する危険有害成分

亜硝酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム、ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム、エタノール

4. 応急措置

暴露経路による応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸困難なときは、人工呼吸を行うこと。医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で15～20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	大量の水で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	意識がない場合には口から何も与えないこと。吐かせないこと。直ちに医師の診断を受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状

情報なし

最も重要な徴候及び症状

情報なし

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

加熱及び火災等の場合は、炭素酸化物及び毒性の強い爆発性の蒸気が発生する可能性がある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
 延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。
 消火活動は風上から行う。
 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服、手袋（耐熱性）等を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

漏れが生じた場合は着火源を取り除く。

作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に関する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

回収、中和、封じ込め、および浄化の方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

少量の場合、ウエス、雑巾等でよく拭き取り適切な廃棄容器に回収する。

大量の場合、砂、盛土等で囲って流出を防止する。

二次災害の防止策

取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。

すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱い注意事項 取扱い後はよく手を洗うこと。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。
－禁煙。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

保管

技術的対策 保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。

混触禁止物質 静電気放電に対する予防措置を講ずること。

酸化剤等

保管条件	換気の良い場所で保管する。
容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

ACGIH TLV-STEL(2011) 1,000 ppm（エタノール）

設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄剤のための設備を設ける。
高温下や蒸気、ミストが発生する場合は換気装置を使用する。

保護具

呼吸器の保護具	必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	保護手袋を着用する。必要に応じてハンドクリームを使用する。
眼の保護具	側板付き保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	長袖の保護衣、保護エプロン、安全靴等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観等	液体
色調	淡赤色
臭い	アルコール臭
沸点	情報なし
蒸気圧	情報なし
引火点	>60°C
粘度	情報なし
密度	0.960 kg/L
溶解度	水：可溶
pH	11

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の実験条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常の実験条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	混触危険物質との混合、加熱
混触危険物質	酸化剤等
危険有害な分解生成物	加熱及び火災等の場合は、炭素酸化物及び毒性の強い爆発性の蒸気が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

製品の有害性情報

情報なし

成分の有害性情報

亜硝酸ナトリウム

急性毒性	ラット（経口）LD ₅₀ = 85 mg/kg ラット（吸入、粉じん）LC ₅₀ = 0.0055 mg/L/4H (5.5 mg/m ³ /4H)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ウサギの眼刺激性試験で Mild、GLP 対応では Moderate であった。
特定標的臓器毒性（単回暴露）	ヒトの心血管系（血圧低下等）、血液（メトヘモグロビン血症等）に影響があるとの記載がある。
特定標的臓器毒性（反復暴露）	ラットの反復投与試験においてメトヘモグロビン血症の報告がある。

ケイ酸ナトリウム

急性毒性	ラット（経口）LD ₅₀ = 600 mg/kg bw
皮膚腐食性・刺激性	ウサギを用いた4時間適用による複数の皮膚刺激性試験において、皮膚の壊死(necrosis)が認められ、腐食性(corrosive)であるとの結果が得られている。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ウサギの眼における試験で腐食性(corrosive)であるとの情報がある。
特定標的臓器毒性（単回暴露）	ラットを用いた経口投与試験（用量：538-2,000 mg/kg bw (males)、910-2,600 mg/kg bw (females)）において嗜眠状態、呼吸数増加、散瞳、痙攣がみられ、ラットを用いた経口投与試験（用量：1,750 mg/kg bw）において、無関心、よろめき歩行、呼吸困難が見られている。また、マウスを用いた経口投与試験（500-1,921 mg/kg (males)、500-1,372 mg/kg (females)）において嗜眠状態が見られている。

ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム

急性毒性	ラット（経口）LD ₅₀ = 438 mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果の記述に、24時間適用で「中等度(moderate)の刺激がみられた」、及びウサギを用いた OECD TG 404 に準拠した皮膚刺激性試験の結果の記述に「刺激性を示した」とあることから、4時間適用試験結果ではないが中等度の刺激性を有するものと判断される。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述に、「250 µg 24時間の適用で重度(severe)の刺激がみられた」、「1%溶液の適用で重度(severe)の刺激がみられた」、及びウサギを用いた OECD TG 405 に準拠した眼刺激性試験の結果の記述に「刺激性を示した」とあることから、強い刺激性を有すると判断される。
特定標的臓器毒性（単回暴露）	「気道を刺激する」との記載があることから、気道刺激性を有すると判断される。

エタノール

急性毒性	ラット（経口）LD ₅₀ = 7,060 mg/kg bw ウサギ（経皮）LD ₀ = 20,000 mg/kg bw ラット（吸入、蒸気）LC ₅₀ = 3,837 ppmV
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ウサギを用いた Draize 試験（OECD TG405）において中等度の刺激性（moderate irritating）と評価され、適用後1～3日目に角

	膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫が認められ、MMAS (Modified Maximum Average Score : AOI に相当) が 24.0、かつ 7 日以内に症状がほぼ回復した。
生殖細胞変異原性	マウス及びラットの経口投与及びマウスの腹腔内投与による優性致死試験で陽性結果を示した。
生殖毒性	疫学研究から、一定量以上の飲酒が流産の発生リスクの有意な増加、妊婦の習慣的な飲酒が胎児の発育抑制等を起こす胎児性アルコール症候群の報告、出生前の摂取により、口蓋裂、手掌線の異常、心房心室中隔欠損、耳管欠損、妊婦の大量摂取で催奇形性、胎児毒性が強く示唆されている。また、マウスの二世代生殖毒性試験で同腹生存仔数の減少、ラットの妊娠期間中の経口投与試験で多指症、多合指症など奇形の報告がある。
特定標的臓器毒性（単回暴露）	ヒトのエタノール吸入暴露で昏迷、傾眠、軽度の麻痺の報告、エタノール摂取の急性影響として中枢神経系の障害、重度の中毒では筋失調、霧視、複視、昏迷、低体温、嘔気、嘔吐、痙攣、大量摂取では昏睡、反射低下、呼吸抑制、低血圧、呼吸または循環器不全等により死に至るとの報告がある。ラット、マウス、モルモットの吸入暴露試験で麻酔、傾眠、運動失調等の報告がある。ヒトへのエタノール蒸気吸入暴露で、眼及び上気道の刺激、咳、鼻腔の疼きの報告がある。
特定標的臓器毒性（反復暴露）	アルコールの長期大量摂取で強い影響を与える標的器官は肝臓で、その障害は脂肪変性に始まり壊死と線維化を経て肝硬変に至る。また、アルコール摂取による重度の身体的依存症患者は、振戦、痙攣、譫妄の禁断症状、嘔気、脱力、不安、発汗、顕著な反射亢進等が報告されている。

12. 環境影響情報

製品の環境影響情報

情報なし

成分の環境影響情報

亜硝酸ナトリウム

生態毒性	魚類（ニジマス）96時間 LC ₅₀ = 0.36 mg/L
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

ケイ酸ナトリウム

生態毒性	魚類（ゼブラフィッシュ）96時間 LC ₅₀ = 210 mg/L
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム

生態毒性	甲殻類（オオミジンコ）48時間 $EC_{50} = 3.5$ mg/L
残留性・分解性	BODによる分解度：73%
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

エタノール

生態毒性	魚類（ファットヘッドミノー）96時間 $LC_{50} > 100$ mg/L
残留性・分解性	BODによる分解度：89%
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

13. 廃棄上の注意**残余廃棄物**

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器および包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意**国際規制**

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
IBCコード	該当しない
航空規制情報	該当しない

国内規制

陸上規制情報	消防法に従う
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

該当しない

特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（エタノール）（0.1 重量%以上を含有する製剤その他のもの）、危険物・引火性の物（エタノール）
消防法	第四類引火性液体第二～四石油類に該当する可能性がある。
大気汚染防止法	揮発性有機化合物（エタノール）

16. その他の情報

参考文献

株式会社エスティージェイ提供資料

化審法データベース（J-Check）（2012）

International Chemical Safety Cards (ICSC) (2000)

NITE GHS 分類物質一覧（2012）

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2011) TLVs and BEIs.

【注意】本 MSDS は、JIS Z 7250:2010、JIS Z 7251:2010、JISZ7252:2009 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 MSDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。